

peace winds



特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

年次報告書

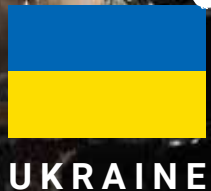
2022

2022.2.1

2023.1.31

ウクライナの青空の下で咲き誇る花畑

支援にむけてのヒアリングのため、ウクライナ・ドニプロ市役所へ向かう道中。ウクライナ国旗を彷彿させる、爽やかな青空と黄色い花畑のコントラストに誰もが一瞬目を奪われた。刹那の平穏を感じた次の瞬間、頭上をウクライナ軍の戦闘機が飛び去ってゆく。(2022年5月)
撮影:近藤史門 ピースウィンズカメラマン



日常と非日常が入り混じるウクライナ

できる支援があるなら

「やらない」という選択肢はない



事前の情報収集はしていました。緊急事態に対応できるように、人もスタンバイしていました。それでも、2022年2月24日のロシアのウクライナ侵攻には耳を疑いました。「大量の避難民が出る」。その日イラクから帰国したばかりの私はCNNを見ながら思いました。でも、ピースウィンズはウクライナでの活動経験がなく、土地勘がない。

まず、紛争地での経験豊富なスタッフを隣国ポーランドに派遣、私自身もモルドバに入りました。モルドバが、決して豊かではないなか懸命にウクライナ避難民を受け入れていることがわかり、最初の拠点をモルドバに置いて支援を開始しました。同時に、スタッフがウクライナの人道支援組織数十団体にメールを送り、信頼して連携できる団体を模索。幸いネットは途切れることなく、地下シェルターに避難している連携団体とリモート会議を続けることができました。緊急物資提供に続き、モルドバの避難所では物資の、ウクライナの病院では医薬品の定期的な提供を開始。モルドバで医師や看護師による医療支援も行いました。戦況は不透明でしたが、5月にモルドバに事務所を設けて支援を続けることを決め、9月にウクライナのキーウに事務所を開設しました。

ウクライナでは、普通に生活していた人々が、突然戦争に巻き込まれました。商店がふつうに開いて、おいしいご飯がある「日常」の中に、空襲警報が鳴り響く「非日常」が入り込む暮らしのなか、人々は前を向いて力強く生きています。私たちにできる支援があるのなら、たとえハードルは高くても、やらないという選択肢はありません。

海外事業部長

山本 理夏

Rika Yamamoto



ジャパンプラットフォーム 常任委員、NGO安全管理イニシアティブ (JaNISS) 世話人などを兼務。大学卒業後、米国のオハイオ大学 大学院にて国際関係学・国際政治学を学ぶ。2000年よりピースウィンズでアフガニスタン、イラク、南スーダン、ウクライナなど紛争地における人道支援、トルコ地震や国内外で発生する地震、サイクロンや干ばつなどの自然災害に関わる。現在は海外事業全般を統括し、緊急支援の立ち上げを指揮するほか、長期化する事業地への対応や方針の策定を行う。

ウクライナの人々に 寄り添ってきた1年間

2022年2月24日にロシアがウクライナに侵攻して以来、多くの人が家族を失ったり家を追われるなど厳しい状況が続いています。2023年2月時点でウクライナ国内に残る人の半分に当たる1,760万人が支援を必要としています。隣国モルドバでも10万人を超える人々が避難生活を続けています。ピースウィンズは現地NGOと連携してウクライナ各地とモルドバで人道支援を行ってきました。

食料・日用品・保護支援

西部リヴィウ州に逃れた避難民と受け入れ先の人々に対して食料や物資を提供し、避難所に医療機器や家具、衛生用品などを提供。

精神保健・心理社会的支援 および法的支援

専門家で構成されるモバイルチームが避難所などを訪問し、精神保健・心理社会的支援を実施。弁護士による法律相談も実施。

隣国モルドバにおける教育支援



一時避難所でも母国の学校が配信するオンライン授業を受け続けられるよう、パソコン等を備えた学習スペースを整備。

隣国モルドバにおける 避難民への食料・ 日用品支援

15万人以上に米、パスタ、野菜、牛乳、離乳食、ホットミールなどの食料、石鹸や歯ブラシなどの日用品を配布。



学校への教育機器の支援

ロシア軍によって一時占拠されていたキーウ州の学校に教育機器や学校家具などを提供。



病院への医薬品支援

医療品が不足する7州の医療施設に、鎮痛剤、解熱剤、抗生剤などを提供。



東部・南部からの退避支援

戦闘の激しいウクライナ東部や南部に残る、高齢者、障害者、子連れの女性などが、比較的安全な中部や西部に退避するのを支援。避難所施設を整備し、食料や日用品を提供。

病院への発電機支援

電力インフラへの攻撃による停電で十分な医療サービスを提供できなかった東部ドネツク州の病院に発電機を提供。



隣国モルドバにおける 仮設診療所での 医療支援

避難民受入センターに仮設診療所を開設し、ピースウィンズの医師や看護師等の医療スタッフが避難民への診察や処置等の医療支援を実施。



ペット連れで来日した 避難民をサポート

ペットを連れて日本に避難してきたウクライナ人を対象に、狂犬病予防法に基づく検疫手続きや保留期間の費用などを支援。さらに、ペット連れ避難のガイドブックを、ウクライナ語・英語・日本語で作成。



Special Interview

広島・神石高原への本部移転10周年

スペシャル対談

里山から 世界を救う

藻谷 浩介

「里山資本主義」を提唱

大西 健丞

ピースウィンズ・ジャパン代表理事

ピースウィンズは2013年、本部を東京都千代田区から広島県神石高原町へ移転しました。きっかけは2011年の東日本大震災。代表理事の大西は、あの大災害を経験したことで、「東京にいて首都直下地震が来たら、被災者を支援するべき私たちまでも被災者になってしまう」と考えたのです。

その移転から10年一。今回は、地域エコノミストで「里山資本主義」(人的ネットワークと地産地消をベースに構築される地域循環型社会を継続させようとする考え方)を提唱されている藻谷浩介氏とともに、ピースウィンズが神石高原を拠点に活動する価値や、これからの可能性について展望しました。



なぜ神石高原へ本部を移転したのか

大西：藻谷さんの著書『里山資本主義』を拝読させていただきました。地方経済の新しいカタチをご提案されている藻谷さんと、地方に拠点を移して新しいNGOのカタチをつくっている私。何か通じ合える気がしまして、この度対談を申し込ませていただきました。今日はよろしくお願いたします。

藻谷：よろしくお願いたします。ここ数年、大西さんが神石高原で面白いことをされているなど見ていました。「山奥の過疎地はもうすぐなくなる」と思っている都会の人たちには、想像もつかないようなことを起こしていますよね。グローバル(地球規模で考え、地域で行動する)なことのように、グローバルであり、かつ極めてローカルなことに取り組まれていて、本当にワクワクします。

大西：ありがとうございます。グローバルで、グローバルで、ローカル。確かにそうかもしれません。

藻谷：神石高原は、瀬戸内海沿いの福山市から急な坂を上ったところにある、標高500から700mぐらいの高原です。自給自足の生活をしてきた集落がたくさんあり、現在は過疎化に悩まされています。和玉こんにゃく、牛乳やヨーグルト、日本ミツバチの蜂蜜など、豊かな産品が数多く作られていて、それぞれ商売が成り立っています。そういう自然のど真ん中に、災害支援用ヘリなどの拠点を持っているわけですよね。なぜ神石高原に本部を移そうと思われたのですか？

大西：歴史的な話になりますが、鎌倉幕府はわざわざ京都から離れたところに自分たちの中心をつくりましたよね。そのおかげで武家の伝統ができて、日本文化が御公家さんの文化だけではなく、複合的になりました。**わざと中心から外して物事を考え直して、そこで勢力を持つというのは、今も有効なんじゃないか**と思ったんです。

そして一番の移転理由は、迫り来る大震災。東京は首都直下地震が来る可能性があるため、**自分たちが被災者になっては多くの人を救えない**と考えました。神石高原は東京から離れていますし、南海トラフ地震が起きたとしても、高原なので津波が来ることはありません。

藻谷：そういうことだったんですね。最近は島根県の手士町にも活動を広げているようですが、どんな意図があるのですか？

大西：私たちが紛争地帯で活動する時は、毎回ロジスティクス（物資の確保から引き渡しまで、物流の最適化を目指す仕組み）を自分たちでつくります。それが支援活動において最も重要だからです。その経験から、日本海側（海士町）と瀬戸内海側（神石高原町）をつないで、**予め支援のためのロジスティクスをつくっておこう**と考えました。

藻谷：なるほど。そんな神石高原には、世界へ飛び出して行くパイロットやお医者さんも一緒に住んでいるんですね。彼らは神石高原を拠点としていることについて、どう思っているのですか？

大西：最初は「？」で来るのですが、神石高原の良さはすぐに分かってもらえますね。

今、へき地診療所や地域の病院に、無償または低額で医師・看護師を派遣しています。普段はそうやって地域医療のサポートをして、地域から感謝いただいています。特にコロナの時は、早期（2020年1月）から感染対策に携わっていたので、広島県の要請を受けて、県内施設でクラスターが発生した際、それ以上広がらないようにする役割を担い、地域に貢献することができました。

藻谷：当時は「防護服が足りない!」と日本中でニュースになった後、急にそのニュースが報じられなくなったなどと思ったら、実はピースウィンズが防護服を大量に寄付されていたんですね。

大西：はい、マスクも（国内外で）150万枚寄付しました。私たちは以前から、「いつか鳥インフルエンザやSARSの変形型が来る」と考えていたので、コロナが流行する約5年前から、佐賀空港倉庫に防護服やマスクなどの備蓄を始めていたんです。少なくとも自分たちが関わる避難所での対応分と思ってストックしていましたが、非常に役に立ちましたね。



コロナ禍では医療福祉施設にマスクを配布（2020年）

藻谷：確かに、東京に備蓄しようとするコストがかかるけれど、地方なら低コストで備蓄できますね。

日本って、都に力を集めようとする「求心力」と、地方から動こうとする「遠心力」のバランスが取れているような気がします。どんなに遠心力が働いても、日本は面白いことに、歴史的に内部分裂を起こしていません。明治維新の時も、力を持ってきた薩長土肥は、「もう江戸幕府はダメだ。俺たちだけで地元で豊かな国をつくらう!」と思ってもおかしくないのですが、わざわざ上京して幕府を倒すわけです。日本に遠心力があっ

たから、地元で一生懸命勉強して実力を蓄えられ、かつ求心力があるために中央の幕府を何とかしようと考えたのです。**本来の日本の遠心力を有効活用したいという考えが、里山資本主義のバックボーン**にはあると思います。

求心力の働かない紛争と向き合うには

藻谷：その一方で、大西さんが活動されている世界、特に紛争地域では、なかなか求心力が働かないように感じています。強権で求心力を高めようとする人と、遠心力でそれに反対する人との間で、国がバラバラになっていますよね。

大西：どうしたら紛争を減速できるか。私たちは、失敗したら殺されるような状況で、紛争当事者との交渉を何度も経験してきました。イラクのアルカイダとも交渉しました。

藻谷：どうやって交渉するのですか？

大西：彼らは日本人に対してそこまで敵意がないんです。タリバンにもアルカイダにも「お前はアメリカをどう思う」と聞かれたので、私はこう答えました。「私の父親は、子どもの時にアメリカの戦闘機に爆撃を受けた。食料難でつくしや野草を採ってお腹の足しにしていた時に、機銃掃射された。パイロットはニヤニヤ笑っていたらいい。私はその息子だ。どういう気持ちか分かるだろう」。すると相手は、「それはよく分かる」と言っていましたね。

藻谷：彼らは戦争を決して悪いことと思っていないんですね。

大西：彼らはアメリカが敵だと思っているだけなので。**彼らのカルチャーの中の良心軸を見つけ出して、交渉したこともあります**ね。良心軸というのは、例えば「恥」。「それは恥ずかしいことじゃないですか」と言われたら、その手を止めるのではないのでしょうか。以前、孤児院の食料を輸送していたときに、クルド人の武装集団に襲われたことがあったんです。クルド語では「恥」のことを「アイバ」と言うのですが、私は「孤児院の食料を奪うのはアイバではないか」と、クルド語で言ったんですよ。そうしたら、彼らは食料を奪うことなく、道を通してくれました。



イラク北部ドホークのクルド系トルコ難民キャンプにて活動する大西健丞（1997年）

藻谷：なるほど、そういう交渉を続けてこられたわけですね。しかし、イラク、アフガニスタンで戦争も少しは落ち着くかと思っただけで、今度はウクライナ侵攻が始まってしまいました。

大西：イラク、アフガニスタンで起きていたことは“人ごと”だったかもしれませんが、急に戦争が身近になったのではないのでしょうか。私はコンボを後にした時、もはや自分が生きている間、ヨーロッパで戦争はないだろうと思っていたのですが、ひっくり返されて甘かったなと思いました。

災害医療支援船がついに始動!

大西：甘かったと後悔しないように、その時に備えてしっかり準備していくことは大切です。

南海トラフ地震がいつ来るかは誰にも分かりませんが、歴史から考えてみると、平安時代の「貞観地震」で東北地方に津波が来た後、南海トラフ地震である「仁和地震」が起きるまで18年です。仮の計算ですが、2011年に18年を足すと、2029年。私たちはそれまでに準備を頑張るべきだということです。

藻谷：2029年…あと6年しかないんですね。

大西：**6年でできることは限られているので、集中して準備しなければなりません。**

藻谷：南海トラフ地震について心配する声は多いですが、首都直下地震や茨城県沖地震と連動しない保証はどこにもありません。相模トラフが動いて関東大震災が連動して起きる、富士山が爆発する可能性もあります。だから「怖い、困った」と言う前に、いざとなった時に物資をみんなで取り合わなくてもいいように、都会から逃げられる場所を持つことが重要という話もあります。

大西：そうですね。計画的かつ速やかな疎開が必要だとは思いますが、なかなか県境を越えて逃げるのも難しい。金銭的な問題もありますし、住み慣れない土地でサバイバルするのは大変なことです。東日本大震災の時にも、県境を越えて疎開させる大規模プロジェクトは生まれず、被災地に留まった人が多かったですね。だから食料が足りず、私たちが関わった避難所では2週間、1日1食でした。

藻谷：だから、今考えて行動しておかなければならない。行政に任せるとは、私たちが民間も個人も、できることからやるべきですね。



藻谷 浩介

Kohsuke Motani

地域エコノミスト

Profile

1964年山口県生まれ。地域エコノミスト。株式会社日本総合研究所主席研究員。平成大合併前の約3,200の市町村すべて、海外95カ国を私費で訪問。地域特性を多面的に把握し、地域振興や人口問題に関して精力的に研究・執筆・講演を行っている。著書に「デフレの正体」、「里山資本主義」、「世界まちかど地政学」などがある。

大西：ピースウィンズの具体的な取り組みとしては、現在、**災害医療支援船**をつくっています。今(2023年5月現在)、まさにマレーシアで整備中。災害時、これまではヘリコプターや飛行機で現地に向かっていましたが、1日・2日経つと燃料が切れますし、食料や薬品もすぐに足りなくなってしまうので、やはり重いものが運べる医療船は有効だと考えています。

藻谷：医療船というアイデアを思いついたのはいつですか？

大西：2004年のインドネシア・スマトラ島沖地震の時に、シンガポール軍のコレット(約1,000トンの船)が活躍しているのを見ました。ヘリパッドが付いているコレットとヘリコプターが協力して、飲料水などを運んでいたんですね。私たちも同じタイミングで現地に着いていたのですが、ロジスティクスの能力が弱すぎて、トラックを現地に入れるまでに2週間もかかりました。その時に、**船とヘリコプターの組み合わせは物凄く力を発揮すると分かったんです。**



2023年秋から稼働予定の災害医療支援船

藻谷：医療船はいつ始動するのですか？

大西：(2023年)7月には就役披露式を行う予定で、母港は今治。重さ3,400トン、全長68m、幅17.4mという大きさです。
※2023年7月2日に就役披露式が今治市で開催されました。

藻谷：巨大なフェリーぐらいの大きさですね！ 南海トラフ地震が来たら、今治から助けに行けるというわけですね。

大西：今後の展開としては、南海トラフ地震が来る前にフリート(船団)にできればと考えています。少し歴史的なところをお話すると、16世紀のヨーロッパでは「プライベートア」(敵国の船を攻撃し荷物を奪う許可を国から得ている公認海賊。日本では私掠船しりやくせんと呼ばれる)という民間公船が海の秩序を守っていました。そのまま現代版にするのは難しいと思いますが、**海や環境を守り、災害救助ができるプロフェッショナルを育て、「プライベートア」を現代に蘇らせたい**と思っています。

藻谷：なるほど。1960年代にイギリスで制作された特撮人形劇『サンダーバード』のようですね。ある家族が自分たちでロケットや飛行機を飛ばして世界の災害から救うというイギリスの発想は、私も含め、当時の日本人には分かりにくかったかもしれません。でも、今その大変なオペレーションを大西さんがつくっていると思うと、本当に凄いと思います。

大西：実は私も『サンダーバード』に憧れた世代なので、災害時に飛ん

でいく医療チームを「サンダーバードチーム」と名付けたいと思いましたが、権利的に難しく断念しました。今回の災害医療支援船に関してもそうですが、公共の部分を民間が担うような人材と資金のフォローができれば、私たち民間としては非常に動きやすいです。

「共感」は人を動かすチカラになる

藻谷：資金については、ピースウィンズの活動に共感して寄付をしてくださる方も多いのではないのでしょうか。

大西：そうですね。最近、「遺贈」というタイプの寄付が増えています。亡くなられてから知ることが多いので、ご本人とお話できていないケースが多いんです。英語では「レガシーギフト」と言いますが、その方のレガシーをどう残すか、できれば生前にお話をさせていただけると有難いです。

藻谷：非常に大きな民間の篤志、公のための経済というのが、今動き出している実感があるわけですね。

大西：そうですね。日本の個人寄付推計総額(2020年)は、ふるさと納税を入れると1兆2,000億円くらい(そのうちふるさと納税は約半分)。一方、アメリカは今のレートだと40兆円を超えています。

藻谷：アメリカは人口が3倍弱ですから、寄付額は日本の約10倍の規模ですね。日本に10兆円ぐらいの寄付マーケットがあっても、実は不思議ではありません。『里山資本主義』でも訴えてきたのは、経済や資本主義はどんどん成長すると言われますが、地球は有限だということ。**多くの人が願っているのは、際限なく成長することではなく、循環再生**なのではないでしょうか。

大西：里山資本主義において「循環」は非常に大事なポイントだと思います。**私たちはそこに「共感」、共感資本主義的な流れを足せたら**と考えています。

藻谷：儲かるからお金を回すのではなく、お互い共感するものにお金を回していくというわけですね。

大西：例えば、コミュニティの中のこれを維持したいとか、この考え方は共鳴できるとか、自分がそこで癒されたとか、**共感というものは人を動かすチカラになる**のだと思います。

藻谷：その通りですよ。共感するフィールドって人によって違うけれど、共感しないものを壊されることさえ止められれば、いろいろな共感の

網によってみんなを助けることができます。例えば、ピースウィンズでは、ピースワンコの活動をされていますが、犬の殺処分ゼロに共感する人も少ない人もいますが、共感が集まれば犬を助けられますよね。

大西：共感って言うのは易しなのですが、少し難しい部分もあります。共感にはいわゆるショックのような驚きが必要だと考えています。私たちは、殺処分寸前だった犬に『夢之丞』という名前をつけて、災害救助犬に育成しました。人間に殺されかけた犬が人間の命を救ったから、多くの人に驚きを与えるだろうと思ったんです。結果、想定以上に感動と共感の反応が出てきましたね。



人の命を救う災害救助犬として活躍した元野犬の「夢之丞」

藻谷：確かにそうですね。お金に対する考え方には最近変化が表れており、「お金を集めてもしょうがない。お金があるなら、何か共感的なものに使った方がいいよね」と考える人が増えています。ショックや驚きなども受容しながら、これから日本の寄付文化が育っていくのかもしれない。

ピースウィンズは“不可能を可能にする”

藻谷：そういう社会において、NGO・NPOは国に成り代わって、国ができないようなことでも、大きな資金を集めて動かしていけるのだと思います。

ます。ピースウィンズが今後たくさんの人から共感を得ていくために、どうしていきたいと考えていますか。

大西：多くの人が「解決は無理」と思っている社会課題に対して、行政の立場からは解決が困難でも、私たちのような「非政府」で「非営利」の民間なら解決できることがあります。鎌倉幕府が京都から離れて歴史をつくったように、『サンダーバード』が世界中を飛び回って災害から人々を救ったように、ピースウィンズは“不可能を可能にする”団体でありたいと思います。まずは南海トラフ地震への備えが喫緊の課題ですが、東アジア有事への備え（太平洋構想）、日本の犬の殺処分ゼロ、インパクト投資の国内普及など、取り組みたいことがまだまだたくさんあるので、真摯でイノベティブな姿勢で取り組んでいきたいです。これからは、マスメディアが報じないような災害・紛争報道にも力を入れ、オウンドメディアの充実を図り、たくさんの人に共感してもらえよう、発信力も強化していきたいです。そして、多様な課題に立ち向かう「ソーシャル・イノベーション・プラットフォーム」となることを目指します。

藻谷：『サンダーバード』のように、民間だけでなく世界のために頑張ると思います。求心力って共感かもしれないですね。

大西：今日はたくさん学びがありました。ありがとうございました。

対談日／2023年5月16日

対談の動画はこちら



代表・大西健丞が描くピースウィンズ・ジャパンの未来

多様な課題に立ち向かう、ソーシャル・イノベーション・プラットフォームへ

CHALLENGE 1

南海トラフ等
大規模地震への
備え

民間初の
災害医療支援船の
整備／継続運用

CHALLENGE 2

東アジア
有事への備え
(太平洋構想)

NGOならではの
平和的な対話／
国際協力

CHALLENGE 3

日本のワンコの
殺処分ゼロ

殺処分ゼロモデルを
広島から
日本全国へ普及

CHALLENGE 4

オウンド
メディアの
充実

マスメディアが
報じない、
災害・紛争報道を
自ら行う

CHALLENGE 5

インパクト投資の
国内普及

※インパクト投資：社会／環境問題の解決を目的として投資を行い、社会的リターンと金銭的リターンを同時に追求する投資のこと。

大西 健丞

Kensuke Ohnishi

ピースウィンズ・ジャパン代表理事
兼 統括責任者

Profile

1967年生まれ。大阪府出身。1996年にピースウィンズ・ジャパンを設立。国内災害支援のCivic Force設立に携わる。また、アジア太平洋の総合支援地域国際機関アジアパシフィックアライアンスCEOに就任。ダボス ヤンググローバルリーダーに選出。

数字で見るピースウィンズ

ピースウィンズは、1996年のイラクでの支援活動から現在までに、37の国と地域で活動し、2,300万人以上の人々に支援を届けてきました。



SINCE 1996

設立

27 周年

NUMBER OF STAFF

スタッフ数

583 人



TOTAL BENEFICIARIES

累計受益者 2023年1月末現在

23,238,353 人

TOTAL SUPPORTING COUNTRIES

累計支援国

37 の国と地域



- | | | | | | |
|---------|-----------|-------|--------|-------|---------|
| アフガニスタン | アメリカ | イラク | イラン | インド | インドネシア |
| ウガンダ | ウクライナ | エチオピア | ケニア | コソボ | シエラレオネ |
| シリア | スリランカ | タイ | トルコ | トンガ | ニジェール |
| ネパール | ハイチ | パキスタン | パラオ | パレスチナ | バングラデシュ |
| フィリピン | ブルキナファソ | ミャンマー | モザンビーク | モンゴル | リベリア |
| 韓国 | 北朝鮮 | 台湾 | 中国 | 日本 | 東ティモール |
| 南スーダン | 2023年7月現在 | | | | |

NUMBER OF RELEVANT SDGs

関連SDGs数

16 個 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



必要な人々に、必要な支援を。

peace winds



私たちピースウィンズはこの言葉を合言葉に、国内外を問わず、あらゆる社会問題に取り組んでいます。中核となる活動は「海外事業」「災害支援事業」「犬の保護・譲渡事業(ピースワンコ・ジャパン)」の3つ。また、佐賀伝統工芸振興支援や過疎地での診療支援など地域創生事業にも取り組んでいます。



OVERSEAS OPERATIONS

海外事業

1996年から紛争や貧困、災害などによる人道危機や、生活の危機にさらされた人々の支援を続けており、これまでに世界37の国と地域で活動してきました。

NUMBER OF BENEFICIARIES

延べ受益者数 2022年度 ※世帯や地域、学校単位などは含まず

3,478,844 人

NATIONALITIES OF STAFF

スタッフ国籍

24 カ国

イラク、ウガンダ、ウクライナ、オーストラリア、ケニア、シエラレオネ、スリランカ、タイ、タジキスタン、ネパール、ハイチ、パキスタン、バングラ、フィリピン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、ミャンマー、モザンビーク、モルドバ、韓国、台湾、東ティモール、南スーダン、日本(2022年度)



EMERGENCY DISASTER RELIEF

災害支援事業

一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、レスキュー活動から医療・物資・避難所運営支援などを被災地で実施する事業です。

TOTAL FREQUENCY OF DISPATCH

累計出動回数

1996年以降
空飛ぶ捜索医療団
構成団体の活動も含む

63 回



NUMBER OF DISASTER COOPERATION AGREEMENTS

災害連携協定
締結団体数

空飛ぶ捜索医療団
構成団体の協定先も含む

46 カ所



PEACE WANKO JAPAN PROJECT

保護犬事業

人間の身勝手によって生み出される犬の殺処分をなくし、ペットと人間の共生を実現する目的で運営される、犬の保護・譲渡事業です。

TOTAL NUMBER OF DOGS RESCUED

命を救った犬の数 2023年1月末現在

7,683 頭



NUMBER OF DAYS NOT KILLED IN HIROSHIMA

広島県で犬の殺処分機が動いていない日数

2,496 日間

ガス室による殺処分



OVERSEAS OPERATIONS

海外事業

国際人道支援といっても、

ふつうのこと。

私が困ったら誰かが助けてくれる。

今は、自分が助ける順番。

アフリカ地域マネージャー

福井 美穂 Miho Fukui

1999年からNGO職員としてバルカン半島のマケドニア(現・北マケドニア)、ボスニア・ヘルツェゴビナ、旧ユーゴスラヴィア(現・セルビア・モンテネグロ)、に駐在し、コソボ難民や国内避難民支援に従事する。2001年にピースウィンズ・ジャパンに移り、アフガニスタン支援に関わった後、シエラレオネで難民キャンプ運営、南スーダンで帰還民支援などにあたる。現在は海外事業部アフリカ地域マネージャーとして、モザンビーク、ケニア、ウガンダ、南スーダンなどの事業に関わっている。

紛争・難民支援

ウクライナへのロシアの軍事侵攻だけではなく、アフガニスタン、シリア、ミャンマーなど世界各地で紛争は終わらず、支援のニーズは拡大、多様化の一途をたどっています。紛争や迫害などを逃れて自国を離れた難民の数は世界で3,530万人（UNHCR発表）。現地にスタッフを派遣し、提携団体と連携しながら、困難な状況にいる人に支援を直接届け続けています。



国境地域で武力衝突 タイ側へ避難する人々も

ミャンマー

活動期間 2013年～現在

2021年2月の政変以降、ヤンゴン近郊の生活困窮者や妊産婦に食糧、日用品、母親支援キットを配布しました。ミャンマー南東地域タイ国境付近での武力衝突の影響による国内避難民に食料、衛生用品、水衛生キットを、タイ側へ避難した人々には食料を支援しました。カレン州村落部での水供給施設建設は政変後の混乱期の中でも実施し、建設を終えました。



経済悪化と繰り返す災害 多くの国内避難民が発生

南スーダン

活動期間 2006年～現在

中央エクアトリア州とアッパーナイル州の国内避難民キャンプおよびホストコミュニティにて給水衛生施設の整備や衛生啓発活動を実施しました。洪水被災地域や避難民受け入れ地域では、不足する給水衛生設備の整備や洪水対策型の給水衛生施設の建設・改修をしました。維持管理には住民の参画を促し、コミュニティにおけるレジリエンス強化を行いました。



タリバン暫定政権下 活動が制限される中で支援

アフガニスタン

活動期間 2001年～現在

ナンガルハール県で紛争・自然災害・感染症拡大による影響で苦しむ脆弱な人々に対して食糧支援のための現金給付を実施しました。さらにバクティカ県では、2022年6月に発生した地震の被災者を対象に食糧や生活物資を配布し、最低限の生活環境を確保する支援を行いました。



設立以来活動を継続中 生計向上支援を主軸に実施

イラク

活動期間 1996年～現在

イラク北部アルビル州とドホーク州のシリア難民キャンプに居住する難民を対象に、生計支援を兼ねた住まいやキャンプ内インフラの改善支援を行いました。またドホーク州の国内避難民及びニネワ州の帰還民への水衛生支援や生計支援、職業訓練を実施しました。

医療・衛生支援

不衛生な環境や水不足などへの対応や、最低限の栄養のバランスが整った食生活を送るための支援は、災害直後の地域だけではなく貧困や社会格差が問題となっている場所でも大切です。急な災害などで地元の医療が対応しきれない場所への医師や看護師の派遣や、地域の医療者と連携しての感染症や生活習慣病などの改善にも取り組んでいます。



Bangladesh



生活習慣病対策のため 病院船で離島への巡回検診

パラオ

活動期間 2021年～現在

離島を含むパラオ国全住民を対象にした病院船による巡回検診・診療と非感染性疾患（生活習慣病）の予防体制強化事業を継続しています。現地保健省及び国立病院と連携し、現地医療従事者への能力強化研修、首都コロールおよび離島での検診・啓発活動を実施しました。検診には15歳以上の住民166名が参加しました。



診療所開設4周年 24時間体制の分娩介助など提供

バングラデシュ

活動期間 2017年～現在

ロヒンギャ難民キャンプで現地提携団体と診療所を運営し、基礎的医療サービスを提供しながら、地域の保健活動を支えるコミュニティ人材を育成しています。特に妊産婦や障害者などの社会的弱者が取り残されず、地域で健康維持・疾病予防行動を促進できるよう支援しました。



ウクライナ避難民に対し 医師などが仮設診療所を運営

モルドバ

活動期間 2022年～現在

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まった直後から、モルドバに避難するウクライナ難民支援を開始し、日本の医師・看護師による診察や健康管理の医療活動、一時避難所での食料・日用品の配布、子どもたちがオンラインで授業を受けられるよう環境を整える教育活動を行いました。



持続的な水衛生サービス提供へ 月経パッド製作支援も

ケニア

活動期間 2012年～現在

北部の2つの難民キャンプと周辺コミュニティにおいて、基礎的水衛生サービスを提供する傍ら、持続可能な水衛生サービスへの転換を目指し、給水インフラの改善、衛生改善のための住民の主体的参加促進、企業連携等に取り組んでいます。また、水衛生におけるジェンダー問題の解消の一環として、安全な布製月経パッドの製作支援等を行っています。

環境／気候変動・災害支援

気候変動による大規模な洪水や干ばつ、猛暑や豪雨等の災害が特に甚大化しています。世界各地で発生する地震や津波などの災害に対応し、医療や救助犬チームの緊急派遣、支援物資の提供などを迅速に展開しています。物資提供や医療・衛生、教育などの支援だけでなく、災害に対する脆弱性を減らすための農業の再建や地域防災の仕組みづくりなど、中期的な支援にも対応しています。



Indonesia



国土の3分の1が水没 残る食料支援ニーズ

パキスタン

活動期間 2022年～現在

南部水害被災者緊急支援で、モンスーンの影響による洪水や地滑りなどによる被害を受けたシンド州の中でも、特に支援が行き届いていない1つの郡で、脆弱性の高い状態にある世帯に食料パッケージ1カ月分と生活物資（石鹸、蚊帳等）配布と衛生促進活動を実施しました。



ジャワ島西部で大地震 家を失った住民に物資を配布

インドネシア

活動期間 2022年～現在

2022年11月に発生した西ジャワ地震に対応し、提携団体と連携して、食糧や衛生用品、マットレスや毛布等の緊急物資を配布しました。また、仮設避難所に滞在していた方を対象に温かい栄養バランスの取れた食事を提供しました。



コロナ禍でロックダウン 困難を極めた物資支援

トンガ

活動期間 2022年

2022年1月15日に発生したトンガ近海に位置する海底火山の大規模噴火を受け、緊急支援物資350世帯分を航空便と船便で4回に分けて現地に届けました。新型コロナウイルスのロックダウン規制の影響で離島への輸送が大幅に遅れましたが、提携団体と連携してすべての物資の配布を完了しました。



大型台風による被害 経済的に困窮する世帯も

フィリピン

活動期間 2021年～現在

2021年12月に発生した台風ライと2022年11月に発生した台風ナルゲの被害に対し、提携団体と連携し、両被害地において約1,700世帯に生活再建資材（シェルター資材、農業資材）や生活必要物資を配布し、被災者の最低限の生活環境確保や生活再建に貢献しました。

1 シリア

活動期間 2013年～現在

シリア国内の提携団体と共に、戦闘で破損した住居と校舎の修繕を支援し、国内避難民や避難場所から戻った世帯等を対象に食料や衛生用品を配布しました。また新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた人々へ衛生用品の配布とともに衛生啓発を実施した他、物価高騰に伴い食料危機に困窮する人々へ食料を配布しました。

2 パレスチナ

活動期間 2015年～現在

ガザにある12の幼稚園にて、幼稚園教員の研修、園舎の修繕、遊具提供、グループセッション、個別カウンセリングなどを行い、幼稚園児の心理社会的支援を実施しました。また、大学卒業後も就労の機会が非常に限られていることから、紛争被害を受けた若者にCBO/NGOでの活動を提供し、学業で得た専門性を活かした業務経験と収入の機会を提供しました。

3 ウガンダ

活動期間 2016年～現在

ウガンダ北部と西部の難民居住地区に住む難民・ホストコミュニティを対象に、学校のトイレや手洗い場の設置、月経衛生支援、特別な支援を必要とする世帯のトイレ建設等を行いました。また、女性支援センターにて相談窓口を運営し、職業訓練やパソコン等を用いた情報通信技術研修を実施しました。

4 モザンビーク

活動期間 2019年～現在

武装勢力の攻撃で多数の国内避難民が発生したカーボ・デルガド州では給水・衛生活動、農業を通じた生計回復を支援しました。また熱帯低気圧アナで被災したザンベジア州では衛生用品や農業種子、家屋の修繕・建築のためのツールの配布と、給水施設の洗浄と消毒を行い、被災者の生活環境の改善を支援しました。

5 スリランカ

活動期間 2009年～現在

トリンコマリ県内の内戦帰還地域で、農業用灌漑設備の修繕・設置を行い農作物の収量増加に貢献しました。また有機農業促進事業では、小規模農家に有機農業技術・市場開拓トレーニング等を行い、支援農家91名が有機認証を取得しました。さらに各地域に有機作物販売所を設け、地域全体の活性化にも寄与しました。

6 ネパール

活動期間 2015年～現在

2015年地震の震源地シンドゥパルチョーク郡の支援開始から8年が経過しましたが、地震の影響による地下水の枯渇や、住宅再建のための借金により、生活に困窮する人々がいいます。安全な水確保のために給水施設を建設、生計改善のため商品作物としての野菜の栽培技術や販売促進支援を継続しました。





Mongolia

命を見捨てない。

世界の平和をあきらめない。



East Timor



America



Haiti

10 America

9 Haiti

● Tonga



HOW TO SUPPORT

「ピースサポーター」

になってピースウィンズの活動全般を支えてください。

毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ピースサポーター 検索



<https://peace-winds.org/peace/>

月々
1,200円~

7 モンゴル

活動期間 1996年~現在

貧困や親の育児放棄などの事情で、養護施設「ヴェルビストケアセンター (VCC)」に保護され生活している47人の子どもたちへの支援を継続しました。

8 東ティモール

活動期間 2003年~現在

コーヒーの生産量が減ってしまう主な原因である、コーヒーの木の老齢化を食い止めるための木リハビリテーション事業を、新型コロナ収束後に再開することができました。また、近年続いている異常気象の対策として、コーヒー生産者に対して森林保全の啓発活動を実施しました。その他、海外のコーヒー見本市に3年ぶりに参加し、販売先の拡大を行いました。

フェアトレード事業

fair trade

ウクライナ事業支援寄付付きのコーヒーやペット用品を販売したところ、たくさんの方に応援していただきました。生豆販売では世界的なコーヒー価格の高騰と不作により、東ティモール レテフォホにも海外バイヤーが入って買い付けたこと、円安の影響でコーヒーの買取価格が上昇したことなどから、必要なコーヒーを集めることが難しい一年でした。



9 ハイチ

活動期間 2018年~現在

2021年8月に発生した大地震の被災地である南県において家屋修繕キットを配布した他、修繕に関する技術講習や指導を実施しました。また障害者施設を対象に松葉杖や車椅子等の歩行補助用品を支援しました。さらに被災地の経済的自立と経済活性化のため、女性グループヘカシューナツの加工技術・販売指導も行いました。

10 アメリカ

活動期間 2021年~2022年

2021年12月にケンタッキー州を含む広範囲に被害をもたらした竜巻被害に対応し、ピースウィンズアメリカと連携して支援を提供しました。赤十字の西ケンタッキー州支部を通じて実施された支援は1,500世帯以上をカバーし、竜巻で破壊された家具などの交換、新しい住居の確保、生活必需品の購入に充てられました。

11 ウクライナ

活動期間 2022年~現在

2022年2月のロシアによるウクライナの軍事侵攻以降、ウクライナ国内で物資の不足する病院への医薬品の提供、国内避難民への食料・日用品の配布を始め、戦闘が続く東部地域では住民の安全な地域までの退避を支援しました。また長期化する避難生活のニーズに応え、西部地域では心理社会的支援・法的支援を提供しています。

EMERGENCY
DISASTER RELIEF

災害支援 事業

より困っている人の役に立ちたい。

そういう人を助けることに

自分の**存在価値**がある。

医師／空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"プロジェクトリーダー

稲葉 基高 Mototaka Inaba

救急科専門医、外科指導医、消化器外科指導医、集中治療専門医、社会医学系指導医、統括DMAT等の資格を活かし、現場の目線を大切に活動心掛けています。国内で地域医療に携わりながら、西日本豪雨災害、長崎クルーズ船COVID-19対応、ウクライナ避難民支援、トルコ地震被災者支援など、国内外の多くの医療支援の現場に立つ。

医療・レスキュー事業



空飛ぶ捜索医療団 ARROWS

空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"を運営し、月例訓練に加え、災害時を想定した多機関連携災害時医療救助訓練、災害医療支援船実証訓練を実施しました。また新型コロナウイルス感染症対策支援では、2021年度に続き酸素センターやクラスター発生施設への人的支援、物資支援、オンライン研修・相談会等を実施しました。

活動期間 2011年～現在

東日本大震災被災者支援



宮城県南三陸町にある交流拠点「晴谷驛（ハレバレー）」を整備し、地元団体による活用を始めました。また、原発事故による避難指示が一部解除された福島県浪江町、大熊町において地元団体と連携し、地域の方々が大切にしている馬との交流を通じたコミュニティ再生事業を開始しました。

活動期間 2018年～現在

西日本豪雨被災者支援



岡山県倉敷市真備町での地域集会所の備品支援、地元団体の運営支援を継続しています。また広島県安芸郡坂町、呉市天応町において実施していた地元団体の運営支援事業を終えました。新型コロナの影響下での活動でしたが、今後も活動を続ける地元団体の運営強化を行うことができました。

活動期間 2019年～現在

地域防災力強化事業



米国政府の助成金を活用し、地域の防災力を強化するため、地域でおこなわれる防災イベント、防災講習、教育機関への講師派遣、災害を経験した被災地と経験のない未災地の行政職員や住民の交流、ネットワーク作りを通して、誰一人取り残さない仕組みづくりを継続して行っています。



HOW TO
SUPPORT

ARROWS サポーター

になって
災害緊急支援活動を
1,000円～
支えてください。

月々

「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の活動は、全国のみなさまのご支援・ご寄付によって支えられています。一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、長期的に支えていただく支援プログラムです。



ARROWSサポーター

検索

<https://arrows.red/donation/>

保護犬 事業

あきらめずに愛情を込めて接すれば、

いつか心を開いてくれる。

夢之丞の成長が

私たちに教えてくれたこと。

シェルターマネージャー

仁尾 愛美 Manami Nio

.....
地元の犬猫の殺処分数の多さに関心を持ったことをきっかけに、動物専門学校の特選学科へ進学。2014年2月ピースウィンズに入職。災害救助犬の訓練補助をしていた際に、広島土砂災害での夢之丞とハルクの捜索する姿に感銘を受け、自身も災害救助犬のハンドラーを目指す。災害救助犬ルークのハンドラーとして、これまでに6ヵ所の被災地で捜索活動に参加。平時はシェルターマネージャーとして大勢の飼育スタッフをまとめ、介護が必要なワンコのお世話などにも携わる。愛玩動物飼養管理士1級。

活動期間 2010年～現在

犬・猫の保護・譲渡事業

2016年4月から続く広島県内での犬の「殺処分ゼロ」を維持し、保護数は累計で7,500頭、譲渡数は3,500頭を超えました。2022年6月に施行された飼育施設の面積等に関する数値規制に対応し、保護シェルターのいっそうの拡充と飼育スタッフの増加に注力しました。広報・支援者サービス部門との連携により、動画を中心に現場からの情報発信に力を入れ、活動への理解と共感を得ることに努めました。ワンだふるサポーターは初めて5万人を超え、遺贈を含む寄付も大幅に増えました。安全対策の強化など、運営体制のさらなる改善にも取り組みました。



活動報告1

ずっと暮らす犬たちのための飼育環境の整備

保護活動を始めてから10年、病気や障害、高齢などの理由で譲渡が難しい犬も増えています。生涯シェルターで暮らす犬たちのために、犬舎の増築を行いました。夜間照明やエアコン、ドッグランを整備、飼育環境をより良いものにしました。



活動報告2

学びの場を設けて飼育スタッフを育成

保護対象の犬の多くが“元野犬”ですが、一頭一頭に適したタイミングや方法で愛情をかけてトレーニングすると、人間を信頼してコミュニケーションを育むことができます。22年度に加わった20名以上の若いスタッフにも、こういったトレーニングについて学びの場を定期的に設け、経験を共有する取り組みを続けています。



活動報告3

マッチングを工夫して新しい家族に繋ぐ譲渡活動



22年度は物価高の影響もあってか譲渡活動は苦戦しましたが、保護犬の認知は少しずつ社会に浸透しており、スタッフはマッチングを工夫して譲渡の拡大のためチャレンジを続けています。2022年度末で累計3,600頭が新しい家族の元へ卒業しました。シェルターがある広島県の神石高原町では、3年ぶりとなる卒業犬同窓会を開催。150組を超える里親さんとピースワンコの卒業犬が集結してくれました。



施設は現在、全国で8カ所

神石高原シェルターで保護し、健康状態を良くして、人馴れトレーニングを行った犬が、各譲渡センターで暮らしています。スタッフが日常の世話をしながら、里親希望の方に保護犬の特徴や性格などをご紹介します。



神石高原シェルター

ピースワンコ・ジャパンの本拠地は、自然豊かな広島県神石高原町にあります。広々とした西日本最大級のドッグランもあり、犬と人がのびのびと遊べます。



ワンだふるサポーター

月々 1,000円~

になってピースワンコ事業を支えてください。

ピースワンコ事業を継続的にご支援いただくプログラムです。保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育や災害救助犬の育成費用などに使わせていただきます。



ピースワンコ 寄付

検索

<https://peace-wanko.jp/support.html>

愛情によって、 再び輝くいのち。

ピースワンコ オレンジ犬舎スタッフ

石橋 涼香 Suzuka Ishibashi

2022年入職。愛玩動物看護師。



What's? 「オレンジ犬舎」とは?

オレンジ犬舎とは、神石高原シェルターの中にある犬舎の一つ。持病を持ったワンコ、障害を持ったワンコ、高齢のワンコなど、お世話に特別な看病・介護が必要なワンコが暮らすための専用犬舎です。



現在は約30頭が暮らしていて、一頭一頭のワンコの状態に合わせて、スタッフがご飯を作って食べさせたり、お散歩に連れて行ったり、点滴や検査をしたり、大切にお世話をしています。



写真と一緒に写っている、「ケンゾー」はどんな子ですか?

ケンゾーは、2022年に動物愛護センターから保護したワンコです。元は飼い主がいましたが、遺棄されてしまい、ピースワンコでお世話をしています。お散歩も大好きで、人も大好き。「ワオーン」とゆっくり鳴く、特徴的な吠え方がとてもチャーミングなお爺さんです。保護後の健康検査では、皮膚炎や白内障、フィラリア症、そして甲状腺機能低下症を患っていることが分かりました。

甲状腺機能低下症とは?

喉付近にある甲状腺は新陳代謝調節している器官ですが、甲状腺から分泌されるホルモンが少なすぎるため、新陳代謝が上手くできなくなってしまう病気です。犬では、シッポの先などの体毛が抜けやすくなったり、疲れやすくなるといった症状が特徴です。ケンゾーには、フィラリア症と甲状腺機能低下症の投薬治療を行い、徐々に体調も安定してきました。ひどかった皮膚炎も、スキンケアに有効な療法食を与え、現在は肌も整っています。

日々のお世話に加え、大切にしている事はありますか?

他の犬舎と同じで、ご飯、お散歩、お部屋のお掃除に加えて、毎日すべてのワンコのバイタルチェックや、必要な治療への補助を、獣医師の指示のもとで行っています。定期的に特定の検査などが必要なワンコなど、個別の治療スケジュールがあるので、スタッフはそれぞれの状態を共有しながらお世話をしています。病気や障害などを抱えているオレンジ犬舎の子も、ワンコそれぞれの個性はキラキラ光っています。気難しい頑固お爺さんもいれば、素直で天真爛漫な子、いたずらが好きな子、日ごろお世話をしていると、本当に色々な面を見せてくれて、どの子も愛らしい子ばかりです。そして、ワンコによって好きな過ごし方も様々なので、一頭一頭とのコミュニケーションも大切にしています。

お世話をしているワンコを、看取る事もありますが、どんな気持ちですか?

いつお別れが来るか分からないワンコたちだからこそ、最後まで、愛情を込めて尽くしたいです。看取る瞬間は、とても悲しくて、入職した

ばかりの頃の思いは、治療に専念しすぎるあまり、後悔ばかりでした。「あのとき、もっと傍にいてあげればよかった。遊んであげればよかった」と、沢山の後悔が残り、とても悔しかったです。今では、その頃の後悔を無駄にしないように、人が大好きなワンコには、時間を使って長めに触れあう。ご飯が大好きな子には、美味しいご飯を与える。外にいるのが好きなワンコには、天気の良い日にランにお布団を敷いてあげて、心地よい環境をできるだけ作ることを意識しています。

オレンジ犬舎からの卒業もありましたが、卒業するワンコへの思いは?



悲しいことが他の犬舎よりも多いオレンジ犬舎での勤務であっても、だからこそ、ここで暮らしているワンコたちには、できる限りの「幸せ」を感じて欲しいと思っています。送り出す瞬間は少し寂しいですが、一頭一頭に掛けられる時間はどうしても限られてしまうので、里親様のもとへの卒業は、本当に嬉しいです。里帰りや遊びに来てくれるワンコを見ると、ここで暮らしている時よりも、穏やかな表情になっているんです。その子の事を大切にしてくださいご家族のもとで、幸せに生きている姿を見ると、一層、多くの犬たちの中から、「この子と家族に」と、みつめてくださった里親様に、感謝の気持ちでいっぱいになります。

野犬の噛み犬が 人に心を開くまで

「人馴れトレーニング」とは？
譲渡までの大事な一歩



私たちが保護する犬達は、ほとんどが野犬です。中には人間を恐れて攻撃性を見せるワンコもいます。怖がりや警戒心が強いワンコのトレーニングには危険が伴うこともあり、より丁寧で高度な技術が必要になります。どんなワンコでも、諦めずに愛情を注げばきっと心が通じるはず。そして新しい家族に出会えるはず。そう信じて、今日も「人馴れトレーニング」を行っています。



歯をむき出して 威嚇する 元野犬のパツヘル



人間と触れ合うことなく育ったまだ3歳の女の子「パツヘル」は、他のワンコよりもすごく臆病な子でいつも人から逃げていました。



トレーニング初日もスタッフが部屋に入った途端、一目散に部屋の隅へ。スタッフが歩く部屋の中で逃げ続け、クレートの中に入って出てこなくなりました。ゆっくり近付いて、怖くないよ〜と言いつつ聞かせながら少しずつ背中を撫でてみます。長い時間をかけて撫でて続け、ようやく少しずつ落ち着いてきました。

しかし、違うところを触ろうとすると再びガウツ！と、スタッフに歯をむいて威嚇しました。ところが、よく見ると威嚇しているだけで噛む気はない様子。怖がっているだけのようでした。経験豊富なスタッフでも油断をすると噛まれるリスクがあるため、怪我をしないように専用のグローブをはめ、丁寧に少しずつトレーニングをします。



この日はなんとかリードを付けることができたのですが、その場で固まったまま、歩き出せる様子ではなかったため、初日はここまでに留まりました。

2日目、 一進一退のトレーニング

この日はいつもより機嫌が悪いようでした。スタッフは大丈夫だよ〜と言いつつ聞かせながらゆっくりリードを付けましたが、威嚇して唸ってきました。怒りをあらわにし、リードを噛みちぎろうとするパツヘル。しばらく待つと落ち着いたらものの、まだまだリードに強い抵抗感を示していました。

場所を変え犬舎の外に連れ出してみましたが、暴れてしまいなかなか落ち着きません。これ以上続けるとリードを嫌いなってしまうので、この日はここで訓練を終了しました。パツヘルは人に馴れてくれるのでしょか……。

時間をかけて少しずつ、 お散歩練習へ

トレーニング開始から1カ月が経つ頃には、暴れることもなくなり、撫でられることにもだいぶ慣れてきました。まだ無意識に歯を出す癖があるので、安全のために口輪もつけてトレーニングを進めます。着けるときは噛まれる可能性があります。そのため、スタッフもとても緊張する瞬間です。口輪に怖い印象を持たないように、反応を見ながらゆっくりと装着します。

次はお散歩に向けて足を上げる練習です。前足の先から少しずつ、撫でながら上げる練習をします。右前足、左前足と順番に持ち上げることができました。リードにもだいぶ慣れてきたので、お散歩練習に挑戦します。



あのパツヘルが 遂に笑顔に……！

5カ月が経つ頃、ついに口輪やグローブなしでも安心して抱っこができるまでになりました。また、トレーニングの甲斐あって外でもお散歩ができるようになりました！

るるんとした表情で歩く姿からは、あんなに人を怖がって逃げていた彼女はもう想像できません。もう威嚇して身を守る必要がないことをわかってくれました。「どんなワンコでもわかり合えるんです。歯をむき出してた元野犬のワンコが、こうしてお散歩できるようにする瞬間がとっても嬉しいです」とスタッフは語りました。

人に脅え、威嚇する犬のトレーニングにはとても長い時間がかかります。短くても数カ月、長いと1年以上もかかることも。スタッフは根気強く、愛情を持ってトレーニングをしています。

私たちはパツヘルのような笑顔をごれからもたくさん増やしていきます。彼女もいつか幸せな家族と出会えますように……。これからも皆さま、応援よろしくお願ひいたします！



Happy Smile!

SOCIAL INNOVATION

地域創生 事業

佐賀出身じゃないからこそ、

佐賀の人が当たり前だと

思っていることも、

すごいと思える。

佐賀事業担当

上野 絵梨奈 Erina Ueno

工芸品産地の山形県天童市出身。小学校の授業で、天童市のみならず全国の工芸の後継者不足問題を聞き、伝統工芸の振興に興味を持つ。2021年4月ピースウィンズ入職。平時は、佐賀県の伝統工芸支援プロジェクト【ピースクラフツSAGA】にて、オンラインショップ運営や商品開発、情報発信業務を担当中。80以上の伝統工芸事業者の現状や課題をはじめ、商品の魅力、つくり手の思いを発信している。夢は、ピースクラフツSAGAの活動を通して、佐賀から日本中の工芸を盛り上げること。

 HOW TO
SUPPORT

「ふるさと納税」も

ご利用いただけます。

ピースワンコ・ジャパン事業や佐賀伝統工芸事業、災害緊急支援事業などPWJのいくつかの事業はふるさと納税でのご支援も可能です。ご寄付が一定額までなら、2,000円を除いた金額が所得税・住民税から差し引かれます。詳しくはポータルサイト「ふるさとチョイス」をご覧ください。



PWJ ふるさと納税

検索

<https://peace-winds.org/support/furusato>

活動期間 2015年～現在

佐賀伝統工芸振興



ふるさと納税事業とオンラインショップ事業を中心に事業者の認知向上、収益アップに貢献しています。商品開発プロジェクト「ピースクラフツSAGA EDITION」は5年目に突入。佐賀の伝統工芸事業者を対象にした助成事業では、窯の修復や新商品開発などの取り組みをサポートしました。



現代の暮らしに合う商品づくりを！ 「ピースクラフツSAGA EDITION」

2018年に開始したピースクラフツSAGAの商品・作品開発プロジェクト。今まで23事業者と123商品を生み出してきました。完成した商品は「伝統工芸品とは思えないくらい新しさを感じます」と評判です。参加した事業者からは「打合せをするたびにアイデアが浮かび、それを取り入れることで作品が進化していく過程が楽しく、有意義な取り組みになりました」とうれしいお声も。2023年の新商品は秋にお披露目予定！ふるさと納税でもお求めいただけます。

活動期間 2015年～現在

地域創生（神石高原町）



広島県神石高原町の町立病院やへき地診療所で、ピースウィンズ of the 医師、看護師、調整員が診療を支援し、新型コロナウイルスのワクチン接種にも協力しました。神石高原ティアガルテンの運営協力や、起業支援などを行う神石高原地域創造チャレンジ基金のサポートも続けました。



へき地診療の効率化へ 電子カルテを導入

ピースウィンズ of the 医師・看護師らがサポートしている神石高原町のへき地診療所に、電子カルテが導入されました。患者の受付から診察・会計までの流れがスムーズになり、検査結果や保険情報などのスタッフ間での共有も、より効率化しました。民間財団の助成金で購入した往診用のパソコンやタブレット端末にも、電子カルテを設定。今後はこれを活用し、在宅医療やオンライン診療など、さらに踏み込んだ地域医療への貢献を試みます。

活動期間 2014年～現在

地域創生（瀬戸内・豊島）



瀬戸内海の豊島などで、CCA Islandsプロジェクトとして、現代アートの専門家や愛好者に対話と交流の機会を提供。世界から公募した若手アーティスト、キュレーターの日本でのリサーチ活動も支援しました。また、ゲルハルト・リヒターの立体ガラス作品を期間限定で一般公開しました。



現代アートの資料を集めた ライブラリーが完成

豊島に、現代アートに関する書籍、カタログ、映像資料などを集めたライブラリーが完成しました。資料は、30年以上にわたり世界のアート関係者と交流してきた方が収集し、ピースウィンズに寄贈してくださったものです。専門家からも「市場に出回ることのない資料を多く含み、大変希少性が高い」と評価されています。今後、1万数千点にのぼるこれらの貴重な資料をデジタルアーカイブ化し、美術史における作品やアーティストの研究などに広く活用できるようにする計画です。

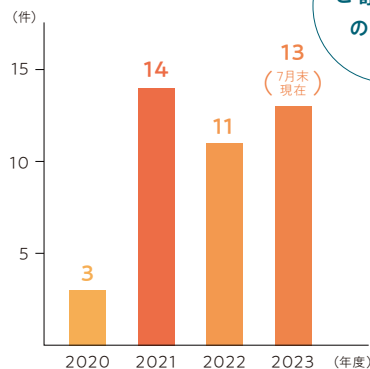
LEGACY GIFT

遺贈寄付

想いを未来につなぐ遺贈寄付でもご支援をいただいております。



遺贈寄付とは、遺産の一部（または全部）を公益活動などに寄付することです。ピースウィンズ各事業においても、ご自分や亡くなられた方の想いを支援の現場で役立ててほしい、故人の望まれた、より良い未来につないでほしいと、多くの方からご相談やご寄付をいただいております。2022年度には11件の遺贈寄付をいただきました。



ご寄付件数のグラフ

専任者がご相談を承ります。

遺贈寄付ご相談係マネージャー
榛田 敦行 (はりたのぶゆき)



Profile

前職は大きな法律団体の事務局として、患者様のサポートの仕事をしていました。司法書士・行政書士の有資格者（2023年5月現在、行政書士は未登録）。趣味は音楽とハイキング。

寄付者の方からいただいた声

Message



犬が大好きで、長年にわたってピースワンコ・ジャパンプロジェクトを会員として支えてくださったAさん。亡くなる半年前に愛犬を亡くされるまで、愛犬と一緒に過ごされたそうです。「犬たちの命を救うために使ってほしい」とご遺産を寄付いただきました。

Message



亡くなられた配偶者の財産から寄付をしたと考え、寄付先を探されたというBさん。ウクライナ避難民へのピースウィンズの活動を知り、「活動している方には、本当に頭がさがります。そして、年をとってしまった者としては、少しくらい気持ちもあります。くれぐれも、お身体に気をつけてご活躍ください」「年金生活者でも寄付ができること、嬉しく思っております」と、寄付をしてくださいました。

関心にこたえる情報提供・セミナー

毎年9月の遺贈寄付ウィークに協賛し、また、団体独自でも、相続・遺贈寄付セミナーをこれまで3回開催しました。「とても参考になった」などと好評をいただいています。また、役立つ情報を紹介したメールレターの発行なども行っています。



相続・遺贈寄付セミナー



メールレター

増加するご相談に応える体制づくり

ピースウィンズでは、増加するご相談に対応するため、2020年に専門の担当部署（遺贈寄付ご相談係）を設置。弁護士・税理士などの専門家の力も借りて、遺贈寄付のご準備に対するサポートなどをさせていただきます。ピースウィンズへの遺贈寄付については、提携の金融機関等にご相談いただくこともできます。



PARTNERS

企業や団体からのご支援

ピースウィンズは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、積極的に連携しています。

2022年度には、560を超える法人からご支援をいただきました。



| | | | | | |
|-------------------------|---------------------|-------------------------------|-------------------------|------------------------------|---------------------------|
| パナソニック ホールディングス株式会社 | 栄研化学株式会社 | 日本たばこ産業株式会社 | BEENOS株式会社 | オイシックス・ラ・大地株式会社 | KDDI株式会社 |
| アマゾンジャパン合同会社 | 東京維新の会 | 株式会社大林組 | ソフトバンク株式会社 | 全日本民主医療機関連合会 | シャディ株式会社 |
| KOA株式会社 | 東武タワースカイツリー株式会社 | デッカーズジャパン合同会社 | 株式会社TK | ブックオフコーポレーション株式会社「キモトと。」 | ブランディア |
| 株式会社ワットマン | 株式会社ドリームゲート | 一般財団法人日本寄付財団 | FJホールディングス株式会社 | MAGO CREATION株式会社 | アークシステムワークス株式会社 |
| エールスペック株式会社 | キーコーヒー株式会社 | 一般財団法人 ピー・ワン財団 | フォーエバーリビングプロダクツジャパン | 株式会社TAKANO ESTATE | 株式会社DEVELOPMENT CLOUD |
| 株式会社Fraternity | J.S.Foundation | 丸中製菓株式会社 | 株式会社SAKURUG | 株式会社VEQTA | 株式会社gh |
| ヤフー株式会社 | READYFOR株式会社 | 株式会社 ワンモア (GREEN FUNDING) | | | |

- 一般財団法人ホシザキ新星財団
- 一般財団法人雲孫財団
- ホシザキ株式会社
- 一般社団法人シェア基金
- 宗教法人在日本南プレスビテリアン ミッション 淀川キリスト教病院
- NPO法人抱樸
- ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
- メディカルカンパニー
- 一般財団法人デロイト トーマツ ウェルビーイング財団
- 学校法人朝日学園
- 株式会社マサコーポレーション
- 株式会社祐真
- 半熟仮想株式会社
- プルデンシャル生命保険株式会社
- 株式会社ロワール
- 社会福祉法人 クビド・フェア
- シチズンズ・オブ・ヒューマンティ・ジャパン株式会社
- 湘南ベルマーレ
- 広告社ホールディングス株式会社
- プレマ株式会社
- 高橋尚子杯きふ清流ハーフマラソン 実行委員会
- 株式会社東京サマーランド
- ワールドチルドレン芸術祭
- 株式会社ユナイテッドアローズ
- 全国労働金庫労働組合連合会
- 朝日生命保険相互会社
- 福岡 ゲイツセブン
- 株式会社ベネフィット・ワン
- アコム株式会社
- 医薬化粧品産業労働組合連合会
- 医療法人 翠光会 ますち内科クリニック
- 一般社団法人MDRT日本会
- 株式会社アークビルド
- 株式会社アダストリア
- 株式会社キーベックス
- 株式会社マッチアップ
- 敦賀断熱工業株式会社
- すげだちBOOKS・一般社団法人 大船渡青年会議所
- 西都保健生活協同組合
- 合同会社十三月
- 株式会社フレックスインターナショナル
- 三井化学株式会社
- 株式会社オフィス樹エージェンシー
- 買取専門店「ザ・ゴールド」
- 一般社団法人全国カラオケ事業者協会
- 公益財団法人茨城県国際交流協会
- 株式会社USTUS
- International Association of Karuizawa
- NPO法人草の根国際協会HOPE
- チャリティショップKANAU
- 株式会社神奈川フェンス土木
- 合同会社アリスの森
- 住友機材株式会社
- 三原ミュージック・ポケット
- かみひとねっとわーく京都
- 京都橋中学校・高等学校
- 日本キリスト教団神辺教会
- 有限会社クロスステッチ館
- ぐっどケア有限会社
- 株式会社婦人之友社
- 株式会社クリンビックス
- 株式会社CAMPFIRE
- 株式会社タイムレス
- ThinkFUTURE株式会社
- ネセサリー株式会社
- 有限会社セフティ
- 善導寺
- 株式会社クラシード
- 株式会社どりーむ
- 株式会社ドンク
- 株式会社若手銀行
- 一般社団法人宮城県建設業協会 塩釜支部
- 合同会社R
- 富士フィルムシステムサービス株式会社
- 株式会社エージェント・インシュアランス・グループ
- 株式会社カラーズ
- 株式会社アンダーザライト
- ザムスター管弦楽団
- 株式会社プレーリードッグ
- 株式会社メディコム (月刊タウン情報トクシマ)
- 月夜の仔猫
- 株式会社ストラテジック・シナリオ
- JBA社会保険労務士法人
- カスタムペイントマニアイズム
- 株式会社MATCHA LATTE MEDIA
- 株式会社第一板金
- 株式会社Mプラン
- NIKOLA TESLA K.K.
- 株式会社ウサギノドコ
- 東八幡キリスト教会
- 有限会社シルバー専科日和
- 一般社団法人Tリーグ
- 松戸友の会
- 株式会社PANTHEM
- ダイイチデンシ株式会社
- ドラゴンフォース株式会社
- よしだ犬ねこ病院
- 医療法人サズあさのクリニック
- 株式会社リコライ
- 株式会社森金属
- 株式会社DENGKI
- 株式会社e-home.
- 株式会社NIC
- 株式会社エス・ピー
- 株式会社エンジニア・ライティング
- 株式会社クラスター
- 株式会社シュガーティスト
- 株式会社スカラベジャパン
- 株式会社ブランドパートナー
- 株式会社友架堂
- 宮田工業株式会社
- 熊野前にしむら内科クリニック
- 鮫島病院
- 日新企業株式会社
- 有限会社優
- 有限会社五和建設
- 立教新座中学校・高等学校
- 株式会社クスイ
- 有限会社奈良迫建築
- 株式会社エフメディカルエイクイップメント
- 医療法人社団ベスリー会東京TMSクリニック

その他、多くの法人様よりご支援をいただきました。

2022年度 助成団体・パートナー団体

| | | |
|--|---|--|
|  From the People of Japan |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  | クラレ財団 |

外務省・日本NGO連携無償資金協力／国際協力機構／米国内務省 Bureau of Population, Refugees, and Migration／
USAID Bureau for Humanitarian Assistance／European Civil Protection and Humanitarian Aid／The Iraq Humanitarian Fund／
UN HABITAT／UNHCR／UNICEF／UNWOMEN／World Food Programme／フェリシモ基金／Give2Asia／
ひろしま国際センター／日本国際協力財団／ジャパン・プラットフォーム／ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ／クラレ財団

企業連携事例

グループ一丸となった ウクライナ危機への支援

パナソニックグループ

Panasonic

パナソニックグループ様には、2022年1月に発災したトンガ王国での大規模噴火に続き、ウクライナ危機への対応にもすみやかに支援を決定いただきました。

従業員寄付および法人寄付として寄せられたご寄付は、ウクライナ国内の医療機関への発電機の支援や、隣国モルドバで避難民を受け入

れるホストファミリーへの支援に活用されました。また、従業員の皆様の尽力により、2,000台を超えるLEDランタンと8,000個の交換用乾電池の物資支援も実現。「日本からの灯り」がリビウ州内の国内避難民に届けられました。



私たちと共に 社会課題の解決に取り組みませんか?.....



従業員寄付に会社が同額を上乗せするマッチング寄付、寄付付き商品の販売、企業版ふるさと納税など、貴社のご事情に合った方法でぜひ、ピースウィンドズの活動をご支援ください! 幅広い業種・規模の企業との協働実績をもつ企業連携の専門部署が貴社に最適な形をご提案します。



PWJ 法人として支援する

検索

<https://peace-winds.org/company/>

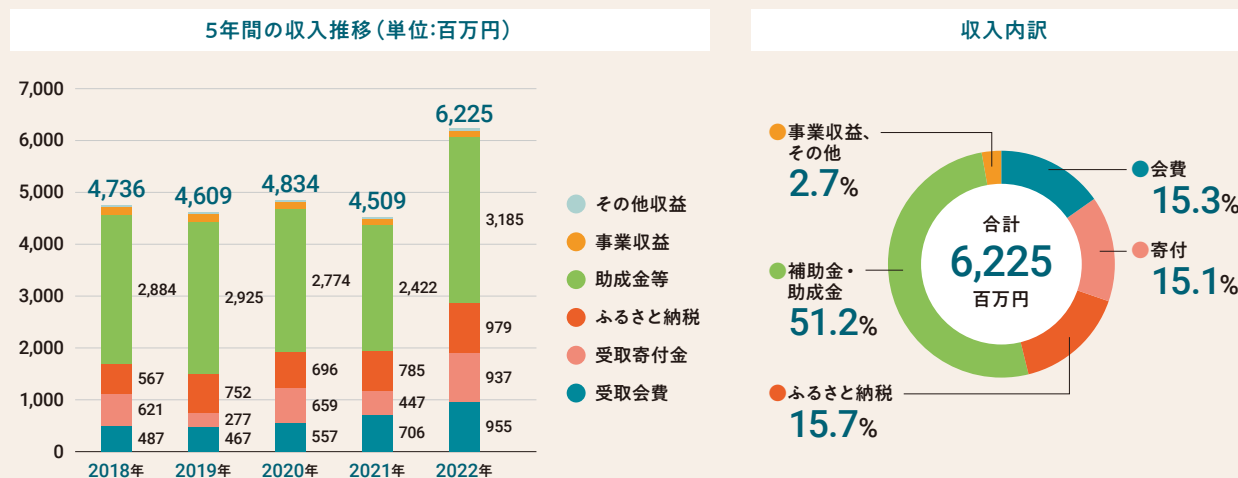
会計まとめ

2022年度の経常収入は前年に比べて38%増加し、62億2,458万円となりました。2022年2月に起きたロシアによるウクライナへの軍事侵攻以降、大きな関心を集めたウクライナ情勢に対して、3億円を超えるご寄付や7.3億円の助成金収入(11.6億円の入金に対して4.2億円は次年度に繰越)がありました。以前から取り組んできたクラウドファンディングやオンライン報告会、YouTube、SNSなどの活用による啓発活動によって、サポーター数が2023年1月時点で5.8万人(前年同月より約1.2万人増加)となり、会費収入が前年比で35%増加しました。ふるさと納税交付金も前年比で25%増収、遺贈によるご寄付も年々増加しています。会費、特定目的寄付金、及びふるさと納税交付金の一部は、次年度以降の事業のために繰り越します。

収入に合わせて活動も拡大し、経常支出は前年に比べて35%増加しました。ウクライナ支援以外にも、アメリカの竜巻、トンガの海底火山噴火、フィリピンの台風、パキスタンの洪水、インドネシア西ジャワの地震への災害対応に加え、ミャンマーやアフガニスタン、スリランカ、ハイチでの政治経済の混乱による慢性的な人道危機に対する支援、国内の地域創生や犬の保護活動も継続しています。一方で、さらなる支援の拡大を目指して、災害時に必要なフィールドホスピタル(野外病院)を展開するための資機材購入や医療支援船の導入準備、パラオで活躍する病院船への設備購入も進めました。保護犬事業で動物愛護法改正に伴う数値規制に対応するための犬舎増設や職員の増員、地域創生事業では現代アートライブラリーの開設など、事業基盤の強化にも取り組んでいます。

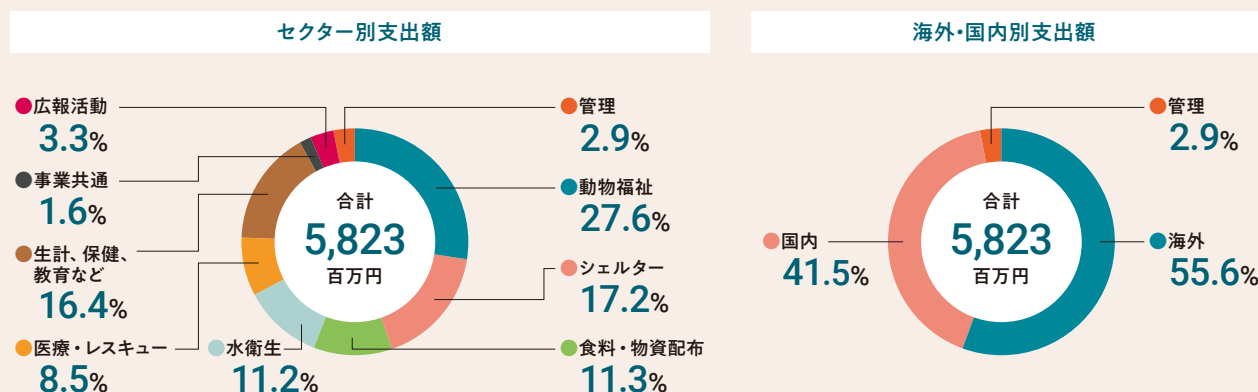
経常収入の推移及び内訳

2022年度の助成金収入の割合が51.2%(前年度より-2.5)に対して、寄付・会費・ふるさと納税による収入が合わせて46.1%(前年度より+3.1)となりました。



経常支出の内訳

2022年度の経常支出をセクター別に分けると、1位は、国内の保護犬事業27.6%(前年より+0.4)。2位は、海外の難民キャンプや帰還民へのシェルター支援17.2%(前年より+0.7)。3位は、ウクライナ支援で拡大した食料・物資配布支援の11.3%(前年より+6.8)となりました。海外事業と国内事業の比率は、海外事業が55.6%(前年より+3.9)に対して、国内事業は41.5%(前年より-3.1)です。



2022年度会計報告

第24期事業年度 活動計算書 2022年(令和4年)2月1日～2023年(令和5年)1月31日

| 科目 | | 金額(円) | |
|------------------|--------------------|----------------------|----------------------|
| I 経常収益 | | | |
| 1. 受取会費 | 正会員受取会費 | 1,890,000 | |
| | 賛助会員受取会費 | 680,000 | |
| | ピースサポーター | 28,721,462 | |
| | ワンだふるサポーター | 859,274,015 | |
| | ワンだふるファミリー | 56,160,000 | |
| | ARROWSサポーター会費 | 4,686,000 | |
| | ARROWSメディカルサポーター会費 | 977,000 | |
| | その他受取会費 | 2,710,900 | 955,099,377 |
| 2. 受取寄付金 | 受取一般寄付金 | 70,429,598 | |
| | 受取特定目的寄付金 | 847,340,470 | |
| | 物品・現物等寄付収入 | 19,605,387 | 937,375,455 |
| 3. 受取助成金等 | ふるさと納税交付金 | 978,627,328 | |
| | 受取民間助成金 | 1,607,527,724 | |
| | 受取補助金 | 363,315,248 | |
| | 国連等補助金 | 1,214,299,094 | 4,163,769,394 |
| 4. 事業収益 | フェアトレード事業収益等その他売上 | 97,300,315 | |
| | 業務委託 | 6,214,100 | |
| | その他事業収益 | 31,413,630 | 134,928,045 |
| 5. その他収益 | 受取利息 | 1,236,488 | |
| | 雑収益 | 32,174,026 | 33,410,514 |
| 経常収益計 | | | 6,224,582,785 |
| II 経常費用 | | | |
| 1. 事業費 | (1)人件費 | | |
| | 給料 | 739,138,118 | |
| | 賃金 | 40,562,830 | |
| | 退職給付費用 | 2,312,550 | |
| | 法定福利費 | 99,746,989 | |
| | 福利厚生費 | 2,250,290 | |
| | 海外現地スタッフ人件費 | 409,532,372 | |
| | 人件費計 | 1,293,543,149 | |
| | (2)その他経費 | | |
| | 直接事業費 | 2,246,271,652 | |
| | 仕入高 | 51,997,353 | |
| | 地代家賃 | 197,166,736 | |
| | 事務所維持費 | 90,394,693 | |
| | 水道光熱費 | 51,975,833 | |
| | 車両レンタル | 60,348,165 | |
| | 通信費 | 22,302,419 | |
| | 旅費交通費(海外) | 96,423,283 | |
| | 旅費交通費(国内) | 46,393,896 | |
| | 広報啓発活動費 | 635,377,651 | |
| | 外注費 | 295,594,269 | |
| | 手数料 | 87,504,932 | |
| | ふるさと納税お礼関連費用 | 18,771,528 | |
| | 減価償却費 | 74,979,477 | |
| | その他の費目 | 382,712,400 | |
| | その他経費計 | 4,358,214,287 | |
| 事業費計 | | 5,651,757,436 | |

| 科目 | | 金額(円) | |
|---------------------|---------------|-------------------|----------------------|
| 2. 管理費 | (1)人件費 | | |
| | 役員報酬 | 100,000 | |
| | 給料 | 56,726,337 | |
| | 賃金 | 1,985,139 | |
| | 退職給付費用 | 16,970,848 | |
| | 法定福利費 | 16,715,619 | |
| | 福利厚生費 | 1,376,766 | |
| | 人件費計 | 93,874,709 | |
| | (2)その他経費 | | |
| | 地代家賃 | 17,463,913 | |
| | 事務所維持費 | 644,048 | |
| | 水道光熱費 | 4,228,715 | |
| | 通信費 | 2,113,871 | |
| | 旅費交通費(国内) | 2,029,272 | |
| | 外注費 | 11,554,000 | |
| | 手数料 | 3,002,424 | |
| | 減価償却費 | 2,796,829 | |
| | その他の費目 | 33,871,642 | |
| | その他経費計 | 77,704,714 | |
| 管理費計 | | | 171,579,423 |
| 経常費用計 | | | 5,823,336,859 |
| 当期経常増減額 | | | 401,245,926 |
| III 経常外収益 | | | |
| | 固定資産売却益 | 1,616,333 | |
| | 有価証券評価益 | 1,199,200 | |
| | 為替差益 | 36,599,579 | |
| 経常外収益計 | | | 39,415,112 |
| IV 経常外費用 | | | |
| | 固定資産除却損 | 1,872,637 | |
| | 助成金返還額 | 3,400,813 | |
| | 支払利息 | 51,240,362 | |
| | 有価証券評価損 | 54,000 | |
| | その他経常外費用 | 9,604,811 | |
| 経常外費用計 | | | 66,172,623 |
| 税引前当期正味財産増減額 | | | 374,488,415 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | | 804,000 |
| 当期正味財産増減額 | | | 373,684,415 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 326,951,863 |
| 次期繰越正味財産額 | | | 700,636,278 |

第24期事業年度 貸借対照表 2023年(令和5年)1月31日時点

| 科目 | | 金額(円) |
|----------------|------------------|----------------------|
| 資産 | | |
| I 資産の部 | | |
| 1. 流動資産 | 現金預金 | 1,446,791,492 |
| | 海外現金預金 | 490,379,220 |
| | 売掛金 | 11,315,302 |
| | 商品 | 29,698,078 |
| | 貯蔵品 | 27,845,115 |
| | 未収入金 | 52,982,325 |
| | 未収収益 | 820,220 |
| | 立替金 | 2,125,811 |
| | 前払金 | 8,775,627 |
| | 前払費用 | 9,414,673 |
| | 仮払金 | 369,161,933 |
| | 未収補助金等 | 7,963,721 |
| | 預け金 | 1,413,954 |
| | 流動資産合計 | 2,458,687,471 |
| 2. 固定資産 | 建物 | 214,239,625 |
| | 建物付属設備 | 84,229,741 |
| | 構築物 | 81,660,468 |
| | 車両運搬具 | 5,606,671 |
| | 工具器具備品 | 57,789,033 |
| | 機械装置 | 214,059 |
| | 船舶 | 20,327,292 |
| | 生物 | 107,681 |
| | 土地 | 22,582,576 |
| | 美術品 | 489,940,271 |
| | 図書 | 7,961,334 |
| | リース資産 | 32,811,098 |
| | 建設仮勘定 | 28,208,463 |
| | 有形固定資産計 | 1,045,678,312 |
| | 電話加入権 | 385,392 |
| | 商標権 | 289,304 |
| | 借地権 | 1,857,600 |
| | ソフトウェア | 3,692,244 |
| | 水道施設利用権 | 216,652 |
| | 無形固定資産計 | 6,441,192 |
| | 子会社株式 | 5,594,700 |
| | 投資有価証券 | 48,043,200 |
| | 長期貸付金 | 45,847,581 |
| | 長期前払費用 | 803,000 |
| | 敷金及び保証金 | 22,384,868 |
| | 投資その他の資産計 | 122,673,349 |
| | 固定資産合計 | 1,174,792,853 |
| | 資産の部合計 | 3,633,480,324 |

| 科目 | | 金額(円) |
|-------------------|-----------------------|----------------------|
| 負債及び正味財産 | | |
| II 負債の部 | | |
| 1. 流動負債 | 仮受金 | 212,009 |
| | 未払金 | 415,479,206 |
| | 未払費用 | 82,191 |
| | 預り金 | 13,273,382 |
| | 前受金 | 327,326 |
| | 短期借入金 | 200,000,000 |
| | 1年内返済予定長期借入金 | 149,238,919 |
| | 前受助成金等 | 1,138,069,690 |
| | 未払法人税等 | 804,000 |
| | 未払消費税等 | 4,613,700 |
| | 流動負債合計 | 1,922,100,423 |
| 2. 固定負債 | 退職給付引当金 | 54,016,032 |
| | リース債務 | 35,897,014 |
| | 長期未払金 | 250,512 |
| | 長期借入金 | 920,495,694 |
| | 長期前受収益 | 84,371 |
| | 固定負債合計 | 1,010,743,623 |
| | 負債の部合計 | 2,932,844,046 |
| III 正味財産の部 | | |
| | 前期繰越正味財産額 | 326,951,863 |
| | 当期正味財産増減額 | 373,684,415 |
| | 正味財産 | 700,636,278 |
| | 正味財産の部合計 | 700,636,278 |
| | 負債の部及び正味財産の部合計 | 3,633,480,324 |



ピースウィズは、
青木幹雄公認会計士事務所による
外部監査を受けております。

財務諸表及び外部監査報告書の全体は
掲載のURLまたはQRコードより
ウェブサイトにてご確認ください。



<https://peace-winds.org/about/report>

2022年度の支援事業一覧

| 目的 | 事業分類 | 支援内容 | 実施場所 | 受益者数 |
|-------------------------------|---------------------|--|--|------------------|
| イラク | | | | |
| シリア難民支援 | インフラ整備 | キャンプ内のインフラ整備・維持管理、シェルター、道路、公共施設の改善 | ドホーク州 | 92,178人 |
| | シェルター、生計支援 | キャンプ内の住居改善や公共施設のアクセス改善、改善工事を通じた雇用機会提供 | ドホーク州、アルビル州 | 41,234人 |
| 帰還民支援 | 技術訓練 | 職業訓練研修 | ニネワ州 | 2,900人 |
| | 水・衛生 | 給水ポンプ場の修復、給水設備整備 | ニネワ州 | 710,416人 |
| 国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む) | インフラ整備 | キャンプ内のインフラ整備・維持管理、シェルター、道路、公共施設の改善 | ドホーク州、ニネワ州 | 110,751人 |
| | 水・衛生 | キャンプ内の水衛生環境の維持管理・改善、水と衛生設備へのアクセス改善 | ドホーク州、ニネワ州 | 18,606人 |
| | 技術訓練 | 職業訓練研修 | ドホーク州 | 60人 |
| シリア | | | | |
| 人道危機対応支援 | 衛生 | 新型コロナウイルスおよびコレラ感染拡大防止支援を目的とした衛生キット配布、感染予防啓発 | アレppo県、ホムス県 | 48,645人 |
| | シェルター、教育 | 戦闘で損壊された住宅および学校修繕、学校設備および学校用品の支援 | アレppo県、ホムス県、ダマスカス郊外県 | 105世帯+2校 |
| | 心理社会的支援 | 脆弱層の女性・子どもを対象とした心理社会的支援、医師および看護師を対象とした精神保健サービス提供支援 | アレppo県 | 2,116人 |
| | 食糧 | 食糧キット、パウチャー配布による食糧支援 | アレppo県 | 7,058世帯(32,290人) |
| 地震被災者支援 | 食糧、心理社会的支援 | 地震直後の緊急食糧配布、心理的応急処置の提供、子どもの心理的サポートの為の支援 | アレppo県 | 38,742人 |
| アフガニスタン | | | | |
| 食糧危機支援 | 食糧 | 社会経済的に脆弱な立場に置かれた人々への食糧支援 | ナンガルハール県 | 5,235世帯(36,645人) |
| 地震被害者支援 | 食糧、シェルター・物資配布 | 地震被災者への食糧および生活物資配布支援 | バクティカ県 | 418世帯(2,926人) |
| パレスチナ | | | | |
| 紛争被害者支援 | 食糧 | 紛争被害世帯の若者へのキャッシュ・フォー・ワーク事業 | 北ガザ県、ガザ県 | 201人 |
| | 保健・医療、保護・心理社会的支援 | 空爆による被害を受けた子どもへの心理社会的サポート | デール・エル・バラハ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県 | 2,475人 |
| 南スーダン | | | | |
| 国内避難民・帰還民支援 (ホストコミュニティ含む) | 水・衛生 | 国内避難民キャンプおよびホストコミュニティにて洪水対策型含む給水衛生施設の建設や改修、維持管理におけるコミュニティのレジリエンス強化、新型コロナウイルス感染症予防対策、住民主体の衛生啓発活動を通じた衛生知識の定着と普及 | 中央エクアトリア州、アッパーナイル州 | 95,094人 |
| ケニア | | | | |
| 難民支援 (ホストコミュニティ含む) | 水・衛生、シェルター、サプライチェーン | 難民キャンプ・周辺地域における水衛生環境改善支援、新規難民に対するシェルターの提供、人道支援に関するサプライチェーンサービスの提供 | ガリッサ郡 | 320,853人 |
| | 食糧、栄養 | 難民キャンプにおける食料安全と食の多様性向上 | トゥルカナ郡 | 241,478人 |
| | 生計向上、ジェンダー | 民間企業と連携した女性の生計向上支援 | | |
| 放牧世帯支援 | 水・衛生、シェルター、サプライチェーン | 難民居住地区・難民キャンプ・周辺地域における水衛生環境改善支援、難民へのシェルター支援、人道支援に関するサプライチェーンサービスの提供 | トゥルカナ郡、西ボコト郡 | 190,562人 |
| ウガンダ | | | | |
| 南スーダン難民支援 (ホストコミュニティ含む) | 水・衛生、ジェンダー | 難民・ホストコミュニティを対象に、学校でのトイレと手洗い場の設置、月経衛生管理含む衛生啓発活動、特別な支援を必要とする世帯のトイレと水浴び場の建設、女性支援センターおよび女性相談窓口の運営、職業訓練、SGBV研修やパソコン等を用いた情報通信技術研修などの実施 | テレゴ県 | 12,407人 |
| コンゴ民主共和国難民支援 (ホストコミュニティ含む) | 水・衛生、ジェンダー | 難民・ホストコミュニティを対象に、公共施設や保健施設での給水衛生支援、新型コロナウイルス感染症予防対策、学校での給水衛生設備の整備および月経衛生管理含む衛生啓発活動、特別な支援を必要とする世帯のトイレ建設、女性支援センターおよび女性相談窓口の運営、職業訓練、SGBV研修やパソコン等を用いた情報通信技術研修などの実施 | チェゲグワ県 | 213,888人 |
| モザンビーク | | | | |
| 北部紛争被災者支援 | 給水・衛生、生活物資配布、農業 | 国内避難民と受け入れ地域住民に対する、給水施設の建設/修繕、衛生用品や生活物資の配布、衛生啓発活動、農業種子やツールの配布と技術支援を通じた生活再建支援等 | カーボ・デルガド州シウレ郡 | 33,390人 |
| サイクロン被災者支援 | 給水・衛生、シェルター | 2022年1月に到来した熱帯低気圧により強風や大雨、浸水被害を受けた被災者へ、衛生用品、農作物の種子、シェルターツールなどの緊急支援物資の配布と、冠水した井戸7基の洗浄と消毒を通じた水質改善を実施 | ザンベジア州モルンバラ郡 | 25,965人 |
| スリランカ | | | | |
| 帰還民再定住支援 | 農業、コミュニティ開発 | 農業水利施設の整備による農地の復興と農業収入の多源化による収入向上支援 | トリンコマリ県 ムトゥール郡、クッチャベリ郡、パダビシリプラ郡、キンニヤ郡、ヴェールガル郡、モラウエワ郡、ゴマランカタワラ郡 | 455,000人 |
| ミャンマー | | | | |
| 緊急人道支援 | 食糧、生活物資、水・衛生、保健 | 避難民への食糧配布、生活物資、水・衛生用品配布、貧困世帯への食料配布および妊産婦への母親支援キット配布 | ヤンゴン郊外、ネービードー郊外、シャン州南部、カレン州、モン州、バゴ地域、タイ・ターク県 | 26,239人+1,367世帯 |
| 難民帰還促進・衛生改善支援 | 給水・衛生 | 給水施設の建設および維持管理講習や衛生改善講習 | カレン州バアン地区、ミャワディ地区、ラインプエ地区 | 2,788人 |



| 目的 | 事業分類 | 支援内容 | 実施場所 | 受益者数 |
|--------------------------|---------------------|---|---|-------------|
| ネパール | | | | |
| ネパール大地震被災者支援 | 水・衛生、農業 | 水へのアクセス改善と野菜栽培導入による小規模農家の生計向上支援 | シンドゥバルチョーク郡 | 3,660人 |
| モンゴル | | | | |
| 子ども支援 | 子どもの保護 | 貧困家庭の子どもたちの自立支援 | ウランバートル市 | 47人 |
| 東ティモール | | | | |
| 地域開発支援 | コーヒー生産者自立 | コーヒー品質管理体制強化による小規模コーヒー生産者支援および支援地域の拡大 | エルメラ県レテフォホ郡・ディリ県ディリ市 | 2,625人 |
| ハイチ | | | | |
| 地震被災者支援 | シェルター、生活用品、衛生 | 2021年8月大地震被災者へシェルター修繕キット配布と衛生講習の実施、障がい者施設への備品配布 | 南県トーベック、マニッシュ、アニケ、カンペランコミュニティ | 9,809人 |
| 生計支援 | 生計向上 | カシューナツ加工・販売を行う女性生計グループ支援 | 南県サンジャン・ドゥ・スード | |
| バングラデシュ | | | | |
| ミャンマー難民支援 | 保健・医療 | 難民キャンプ14内での診療所運営、キャンプ内および周辺地域の保健人材育成、コミュニティでの保健衛生啓発活動や脆弱者支援 | コックスバザール県ウキア郡 | 66,943人 |
| インドネシア | | | | |
| 地震被災者支援 | 食糧、生活物資、水・衛生 | 地震の被災者への食糧・生活物資・衛生キットの配布 | 西ジャワ州チアンジュール | 1,024世帯 |
| パラオ | | | | |
| 生活習慣病予防体制の強化支援 | 医療・保健 | 離島を含む国民に対して健康診断と啓発活動の実施 | パラオ全土 | 18,000人 |
| トンガ | | | | |
| 海底火山噴火被災者支援 | 食糧、生活物資 | 航空機による食糧・日用品・清掃道具の運搬および配布 | トンガタブ島・ハアバイ諸島 | 350世帯 |
| フィリピン | | | | |
| 台風被災者支援 | 生活物資、シェルター | 台風被害が深刻でかつ支援が十分に届いていない地域での、生活物資およびシェルター資材・農業資材等の生活再建資材の配布 | セブ州・コルドヴァ、セブシティ | 1,269世帯 |
| 台風被災者支援 | 生活物資 | 台風による洪水被害を受けた被災者への生活物資配布 | ア克蘭州・バレテ | 396世帯 |
| アメリカ | | | | |
| 竜巻被災者支援 | 食糧、生活物資 | 安全なシェルターや生活物資の提供 | ケンタッキー州 | 1,500世帯 |
| ウクライナ | | | | |
| 国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む) | 退避支援、食料、生活物資 | 戦闘地域からの避難支援、避難所の整備、食料・衛生用品および日用品の配布 | ドネツィク州、ルハーンシク州、ハルキウ州、スームイ州、ザポリージャ州、チェルニーヒウ州、ムイコラーイウ州、ヘルソン州、ドニプロペトロウシク州、チェルカースィ州、キロヴォフラード州、リヴィウ州 | 19,000人 |
| | 医療インフラ・心理社会的支援・法的支援 | 医療施設への医薬品の提供、避難所等での心理社会・法的支援の提供 | チェルニーヒウ州、スームイ州、キーウ州、ハルキウ州、ルハーンシク州、ドネツィク州、ザポリージャ州、リヴィウ州 | 420,881人 |
| モルドバ | | | | |
| 避難民支援 (ホストコミュニティ含む) | 食料、生活物資、インフォーマル教育 | 一時避難所の整備、食料・衛生用品および日用品の配布、学習スペースの整備および運営 | キシナウ市、クリウレニ地区、ニスボレニ地区、バルチ地区、ゴルデニ地区、カフル地区 | 156,227人 |
| | 医療・保健 | 仮診療所での診察・治療・ケアおよびヘルスチェックの実施、医薬品の提供 | キシナウ市 | 1,417人 |
| パキスタン | | | | |
| 南部水害被災者緊急支援 | 食料配布、水・衛生 | 洪水や地滑りで最も被災の影響を受けた対象郡で、脆弱な状況下にある人々への食料・物資配布、衛生促進活動の実施 | シンド州ダドゥ郡 | 22,386人 |
| 日本 | | | | |
| 伝統工芸振興 | 地域創生事業 | 伝統工芸の商品開発、助成、情報発信、販路開拓等 | 佐賀県 | 不特定多数 |
| 西日本豪雨被災者支援 | 災害支援 | コミュニティ再構築 | 岡山県倉敷市、広島県呉市、坂町 | 地域住民(不特定多数) |
| 東北復興支援 | 災害支援 | 馬との交流を通じたコミュニティ再生、活動拠点の運営準備 | 福島県大熊町、宮城県南三陸町など | 地域住民(不特定多数) |
| その他国内災害被災者支援 | 災害支援 | 地震被災家屋の応急修復 | 広島県南相馬市 | 被災住民(不特定多数) |
| 地域防災力強化 | 災害支援 | 防災・減災を目的としたイベント開催、研修など | 高知県、愛媛県、岡山県、広島県、熊本県、東京都など | 不特定多数 |
| 新型コロナウイルス対策緊急支援 | 災害支援 | ワクチン接種支援、物資支援、高齢者施設の感染対策支援など | 全国 | 不特定多数 |
| 犬の保護・譲渡など | 動物保護活動 | 犬の保護・譲渡、シェルター・譲渡センターの運営、災害救助犬・低血糖アラート犬の育成など | 広島県、岡山県、東京都、神奈川県、奈良県 | 不特定多数 |
| 馬の保護 | 動物保護活動 | 元競走馬2頭のリトレーニング | 福島県 | 不特定多数 |
| 医療支援 | 地域創生事業 | 過疎地の病院、診療所における診療支援 | 広島県 | 地域住民(不特定多数) |
| 芸術振興・まちづくり | 地域創生事業 | 芸術作品の公開、現代アートライブラリーの開設、観光施設の運営支援など | 愛媛県、広島県 | 不特定多数 |


*受益者の算出について：村でのインフラ整備など、地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。


特定非営利活動法人


ピースウィンズ・ジャパン

ピースウィンズ

検索

 ピースウィンズ・ジャパン

 @PeaceWindsJapan


 @peacewindsjapan

Company Profile

■名称：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン ■設立：1996年2月 ■法人格取得：1999年10月

■スタッフ数：計583人(国内スタッフ227人、海外現地スタッフ356人) ■代表理事：大西 健丞 ■理事：

石井 宏明 桑名 恵 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏 ■監事：川合 孝一(2023年1月末現在)

✉ meet@peace-winds.org  <https://peace-winds.org>

寄付金控除の対象です

ピースウィンズは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりピースウィンズへのご寄付は税金控除の対象となります。(正会員会費は対象外です。)

ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使用させていただきます。ピースウィンズの寄付金等取扱規程はWEBサイトでご覧いただけます。

https://peace-winds.org/support/pdf/A13kihukin_20210319.pdf

本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL.0847-89-0885(代) FAX.0847-82-2949

東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL.03-5738-8020(代) FAX.03-3465-2112

佐賀事務所

〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F
TEL.0952-20-1607(代) FAX.0952-20-1608

お問い合わせは、支援者サービス係までご連絡、
もしくはピースウィンズのWEBサイトをご覧ください

0120-252-176

平日 10:00~17:00

ピースウィンズ 受付

検索

<https://peace-winds.org/support>

